



第 4 1 期 株 主 通 信

平成21年5月1日～平成22年4月30日

Financial Report

まごころを、つむぐ。
しあわせへと、つなぐ。

アイングループ

452店舗

全国に広がるネットワーク



ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は、当社に温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第41期（平成21年5月1日から平成22年4月30日まで）の決算が終了いたしましたので、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

第41期におきましては、小売業は依然として厳しい消費環境にあり、完全な回復には至っておりませんが、当社グループは調剤薬局、都市型ドラッグストアを全国に出店し、また、グループ再編とともに業務改善に取り組み、事業規模及び収益力の向上に努めてまいりました。

本年4月には東京証券取引所市場第一部への指定、5月には札幌証券取引所への上場を果たしており、以前に増して、企業価値向上に取り組む所存でございますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 **大谷喜一**

Q 今期の業績はいかがでしたか。

医 薬事業におきましては、今期グループ全体で24店舗の調剤薬局を出店し、新店、既存店とも堅調な来局患者数に支えられまして、売上高は前期比9.6%の増加となりました。

物販事業は、全般的な消費の低迷により、既存店の多くは前年を下回る結果となりましたが、都市型ドラッグストアを5店舗出店した結果、売上高は前期比2.8%の増加となりました。

今期は、新規出店による拡大を進める一方で、グループにおける抜本的な業務改善を推進いたしました。

子会社間の合併（※）、重複業務の一元化等により、間接コストの圧縮はもとより、グループとして、より機動的に活動ができる体制となりました。

以上により、当社グループの業績は売上高1,254億9千5百万円（前期比8.8%増）、経常利益は63億6千2百万円（同26.2%増）、当期純利益は31億3千1百万円（同47.2%増）といずれも過去最高を更新することができました。

（※）平成21年8月に株式会社アインメディカルシステムズ（東京都）と株式会社リジョイス（東京都）が合併。平成21年10月に株式会社アイン東海（愛知県）と株式会社リジョイス薬局（京都府）が合併し、株式会社アインメディオに社名変更。平成22年4月に株式会社アインメディオとサンウッド株式会社（富山県）が合併。

Q 医薬事業の展開についてどのようにお考えですか。

病 院をはじめとする医療機関は、処方せんの院外発行をなおも拡大しており、当社グループとしても、これまで以上に、積極的な出店とM&Aにより、事業規模及び出店エリアの拡大を継続いたします。

M&Aについては、買収相場価格の高騰により、今期において大規模な案件は未実施に終わりましたが、確実に投資回収が見込まれ、かつ、質実とも優良な案件につきましては、今後においても積極的に対応する方針です。

また、患者さまの安全性を第一に考え、調剤薬局業務のオートメーション化を推進しており、今期新たに「自動錠剤ピッキング機」、「自動水剤分注機」（※）を採用し、薬局において検証を行っております。

薬剤師の採用については、平成22年4月及び平成23年4月は薬学部6年制への移行期間に伴い、新卒薬剤師の採用が殆どありませんが、平成24年以降の大量採用に向けて、全グループが協調して準備を行っております。

（※）自動錠剤ピッキング機は、包装薬剤の全自動調剤を行う装置の総称。自動水剤分注機は、水剤の混合、充填を自動的に行う装置。

Q 物販事業の展開について
どのようにお考えですか。

物販事業は、全般的な景気の低迷に加え、昨年6月の改正薬事法の影響もあり、今期は業績の改善には到りませんでした。

改正薬事法下では、登録販売者が第二類、第三類医薬品を販売できることとなり、医薬品の売上比率の高い郊外型ドラッグストア「アインズ」では、異業種を含めた競合のため、少なからず影響を受けております。

当社としては、コスメティックを主力商材とする都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」を積極的に出店し、差別化された業態により収益拡大を目指すものとし、今期、西武池袋本店への出店を含め5店舗を新規出店いたしました。

今後においても、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」及びコスメティック専門店「トルペ」を札幌、東京都心のほか、他の主要都市に年間10店舗前後出店するとともに、既存店は、改装も含めた売場の見直し、仕入、販売手法、販売促進方法、管理コスト等を全般的に見直し、業績改善に向けて、全社を挙げて取り組みます。

Q 平成22年4月の調剤報酬改定
についてお聞かせください。

平成22年4月の調剤報酬改定は、平均薬価引き下げ率が5.75%となる一方で、ジェネリック医薬品の使用促進を意識した報酬体系となりました。

日本のジェネリック医薬品の普及は、欧米諸国に大きく遅れており、薬剤費の抑制からも不可避の流れであると思います。

当社グループの調剤薬局においても、薬局単位の収入は減収となることが避けられませんが、かねてより、ジェネリック医薬品の普及拡大については、当社として肯定的に取り組んでおり、同医薬品の専門卸である子会社株式会社ホールセールスターズを含め、グループとして収益を確保する方針です。

なお、現在の処方せん様式においては、処方医がジェネリック医薬品に変更することを許可しない場合を除き、患者さまの意思により、薬局においてジェネリック医薬品への変更が可能です。

当社グループの調剤薬局は、患者さまの負担軽減、国民医療費の増加抑制の観点から、先発医薬品よりも安価であるジェネリック医薬品の使用を推奨しております。

Q 今後の業績について お聞かせください。

来期においては、現在営業中の開発物件の出店を、グループ全体で調剤薬局50店舗、都市型ドラッグストア10店舗の合計60店舗予定しています。

これにより、売上高1,377億5千万円（対前年比9.8%増）、経常利益76億5千万円（同20.2%増）、当期純利益38億2千万円（同22.0%増）と売上利益ともに最高益を更新する見込みであります。

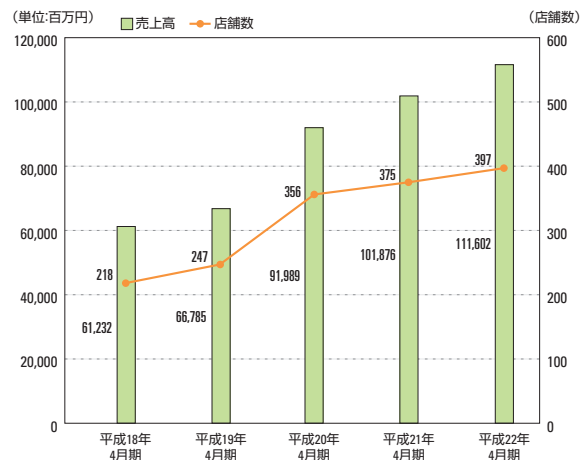
1株当たり予想当期純利益は270円84銭となり、1株当たり配当金も普通配当において、10円増となる45円を予定しております。

また、4年後となる第45期（平成26年4月期）において、売上高2,000億円、経常利益135億円、総店舗数686店舗を目指す、新中期計画「Transcend（※）2000」を策定いたしました。

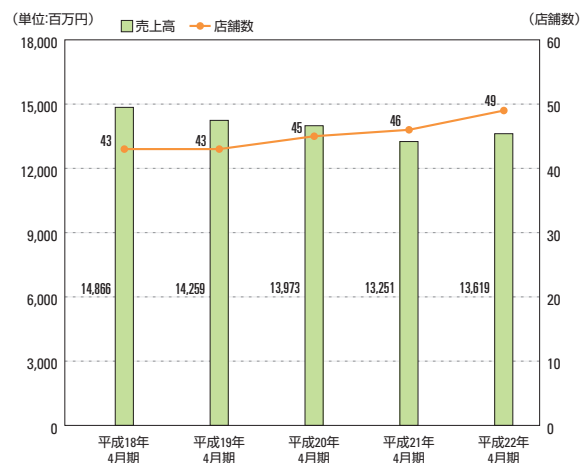
この新中期計画を含む「2010年4月期決算説明会」の概要は、当社ホームページに掲載しておりますので、是非、ご覧頂きたいと存じます。

（※）Transcend：超える、超越する

医薬事業売上高・店舗数の推移



物販事業売上高・店舗数の推移



医薬事業 pharmacy



調剤薬局事業は、処方日数の長期化に伴う処方せん単価の上昇及び堅調な来局患者数により、新店・既存店とも好調に推移いたしました。

当社グループは、積極的な出店による事業規模の拡大を推進する一方で、薬局単位の収益力を強化するため、調剤業務における機械化を推進し、安全性及び効率性の向上を目指しております。

また、グループ体制の機動性向上及び管理コストを削減するため、同一地域において営業する子会社の合併を実施いたしました。

当連結会計年度は、大型のM&Aは未実施となりましたが、北海道から九州まで合計24店舗の新規出店を行い、当社グループにおける稼動調剤薬局数は397店舗となりました。その結果、売上高は1,116億2百万円（前期比9.6%増）となり、営業利益につきましても83億3千万円（同23.2増）と増益を達成いたしました。

topics

アイン薬局では、PDA（情報携帯端末）を活用した調剤過誤システム（PhAin（ファイン）システム）や、処方せん自動読取システムなど、常に調剤業務における安全性を担保するための先鋭的なシステム導入を行っております。

今期は、新たに、自動錠剤ピッキング機と自動水剤分注機を新たに試験導入いたしました。

これらの調剤機器は、処方せんの入力から、包装薬剤の取り分け、水剤の秤量・混合・充填を全て自動的に行う装置であり、正確性向上と調剤時間の短縮に大きく寄与するものであります。

特に水剤の調剤は、薬剤師の技能を必要とする業務であり、数年前より調剤機器メーカーと機械化に向けた共同開発を続けてきたものです。

アイン薬局では、これからも最先端の技術を取り入れ、安全性と患者さまへのサービス向上に繋がるあらゆる可能性を検討していきます。



アイン薬局かつた店（茨城県ひたちなか市）

about Generic drugs

ジェネリック医薬品について

ジェネリック医薬品とは、特許期間の切れた新薬（先発医薬品）に対し、効き目、安全性が厚生労働省より新薬と同等と認められた医薬品の総称です。

そのため、ジェネリック医薬品の価格は、新薬に対して約5割から7割に設定されています。

私たちは、患者さまの負担軽減、国民医療費の節減の観点から、ジェネリック医薬品の普及拡大にさまざまな側面から取り組んでおります。

ジェネリック医薬品の普及



ジェネリック医薬品は、欧米諸国では古くより一般に普及しており、アメリカ、カナダ、ドイツ、イギリスでは、使用率が60%を超えています。

現在、日本国内における使用率は20%程度ですが、厚生労働省の2012年度30%の目標に向け、着実に普及しています。

薬局での取り組み



アイン薬局では、患者さまの負担軽減のため、ジェネリック医薬品の使用をおすすめしています。アイングループの薬剤師は、専門的な薬学知識により、みなさまの健康をサポートするとともに、ジェネリック医薬品に対する疑問、ご質問にお答えしています。

安定供給への取り組み



グループ会社である、株式会社ホールセールスターズは、国内唯一のジェネリック医薬品専門卸です。

同社は、多くのジェネリック医薬品を取り扱い、全国のグループ調剤薬局のほか、病院等の医療機関に安定的な供給を行っています。

物販事業

drugstore



物販事業では、全国的に消費が低迷するなか、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」とコスメティックショップ「トルペ」を全国都心部の商業施設に出店いたしました。

「アインズ&トルペ」と「トルペ」はコスメティック商品をメインに、各店舗とも出店地の地域特性に応じた、バラエティ性の高い店舗コンセプトを特徴としており、多くの女性の支持を得ております。

今期は、初の百貨店への出店となる池袋西武店、JR、私鉄駅直結の商業施設への出店となる「フレンテ南大沢店」、「エキュート立川店」を含む5店舗の出店を行いました。

当連結会計年度は、MD見直し、ポイントカード会員に対する販売促進等、収益改善を目指してまいりましたが、郊外型ドラッグストアをはじめとする既存店の販売不振により、売上高は136億1千9百万円（前期比2.8%増）となり、営業損失は4億9千3百万円（前期は2億8千9百万円の営業損失）となりました。

topics

昨年11月、西武池袋本店に「アインズ&トルペ」がオープンしました。

当店は、当社でも初めての試みとなる百貨店への出店であり、ビューティーケア・ヘルシーフードなど健康に関する「ウェルネスフロア」、メイクアップ・フレグランスを集めた「コスメティックフロア」、そして、スキンケア・ボディケアに特化した「スペシャリティフロア」と、3フロアを異なるコンセプトで構成し、それぞれバイヤーが世界中から厳選した商品を集めました。

日本初上陸のブランドコスメをはじめ、約200のブランドと1万以上のアイテムをそろえた、キレイに関するオールインワンショップとして、美しさと健康に関する女性のニーズに自信をもって提案いたします。



アインズ&トルペ池袋西武店（東京都豊島区）



Individualistic style

進化するコスメ&ドラッグ

活き活きと美しく生きる。そのしあわせをお届けしたい。

アインズ&トルペは女性のために生まれた、ヘルス&ビューティーのセレクトショップです。

私たちは、最新の国内外の情報を常に収集し、美容・健康をサポートする商品を

ひとつひとつ吟味し、みなさまに自信をもっておすすめしています。

今日も何かひとつ、あなたにとって素敵なものが見つかる場所でありますように。

都市型ドラッグストアをコンセプトに、エキナカ、エキビル、エキチカを中心に出店を加速していきます。

ainz & tulpe

カラダの内と外、両方のキレイを提案するコスメとドラッグのセレクトショップ

cosmetic tulpe

行くたび、きれいのヒントが見つかる、ワンランク上のトータルビューティーストア



アインズ&トルペ大通ビッセ店（札幌市）



トルペエキュート立川店（東京都立川市）

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成21年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成22年4月30日現在)
(資産の部)		
流 動 資 産	28,170	31,242
現金及び預金	9,234	11,188
受取手形及び売掛金	8,560	9,269
商 品	5,832	6,841
貯 蔵 品	96	96
繰延税金資産	631	723
短期貸付金	613	892
未 収 入 金	2,409	1,404
そ の 他	805	850
貸倒引当金	△ 12	△ 24
固 定 資 産	33,862	34,642
有形固定資産	12,238	12,510
建物及び構築物	5,987	5,993
土 地	4,958	5,001
建設仮勘定	208	315
そ の 他	1,083	1,200
無形固定資産	13,493	13,077
の れ ん	12,835	12,154
そ の 他	657	923
投資その他の資産	8,130	9,054
投資有価証券	2,057	2,802
繰延税金資産	892	995
敷金及び保証金	4,496	4,462
そ の 他	952	1,013
貸倒引当金	△ 268	△ 220
繰延資産	—	14
株式交付費	—	14
資産合計	62,032	65,898

科 目	前連結会計年度 (平成21年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成22年4月30日現在)
(負債の部)		
流 動 負 債	33,402	34,140
買 掛 金	18,712	19,666
短期借入金	7,576	6,549
1年内償還予定の社債	140	—
未払法人税等	1,263	1,709
預 り 金	2,841	3,036
賞与引当金	800	875
役員賞与引当金	43	21
ポイント引当金	273	297
そ の 他	1,751	1,984
固 定 負 債	12,521	10,266
長期借入金	10,966	8,427
退職給付引当金	863	1,017
そ の 他	692	821
負債合計	45,923	44,406
(純資産の部)		
株 主 資 本	16,428	21,676
資 本 金	5,057	6,308
資本剰余金	4,247	5,498
利益剰余金	7,127	9,874
自己株式	△ 3	△ 4
評価・換算差額等	△ 356	△ 231
その他有価証券評価差額金	△ 356	△ 231
少数株主持分	37	46
純資産合計	16,109	21,492
負債純資産合計	62,032	65,898

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成20年5月1日から 平成21年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)
売上高	115,387	125,495
売上原価	100,141	108,258
売上総利益	15,245	17,237
販売費及び一般管理費	9,948	10,744
営業利益	5,296	6,492
営業外収益	295	348
営業外費用	550	478
経常利益	5,041	6,362
特別利益	117	88
特別損失	415	345
税金等調整前当期純利益	4,743	6,105
法人税、住民税及び事業税	2,532	3,157
法人税等調整額	80	△ 192
少数株主利益	1	9
当期純利益	2,127	3,131

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (平成20年5月1日から 平成21年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,333	6,428
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 757	△ 2,700
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,462	△ 1,773
現金及び現金同等物の増減額	5,038	1,954
現金及び現金同等物の期首残高	4,195	9,234
現金及び現金同等物の期末残高	9,234	11,188

■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成21年5月1日から平成22年4月30日まで）

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成21年4月30日 残高	5,057	4,247	7,127	△ 3	16,428	△ 356	△ 356	37	16,109
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	1,251	1,251			2,502				2,502
剰余金の配当			△ 384		△ 384				△ 384
当期純利益			3,131		3,131				3,131
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					—	124	124	9	134
連結会計年度中の変動額合計	1,251	1,251	2,746	△ 0	5,248	124	124	9	5,382
平成22年4月30日 残高	6,308	5,498	9,874	△ 4	21,676	△ 231	△ 231	46	21,492

■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第40期 (平成21年4月30日現在)	第41期(当期) (平成22年4月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	15,943	16,990
固定資産	34,725	35,540
有形固定資産	6,063	6,184
無形固定資産	532	706
投資その他の資産	28,129	28,650
繰延資産	—	14
資産合計	50,668	52,545
(負債の部)		
流動負債	26,883	27,731
固定負債	11,131	8,959
負債合計	38,014	36,690
(純資産の部)		
株主資本	13,003	16,086
資本剰余金	5,057	6,308
資本剰余金	4,247	5,498
利益剰余金	3,703	4,283
自己株式	△ 3	△ 4
評価・換算差額等	△ 349	△ 231
その他有価証券評価差額金	△ 349	△ 231
純資産合計	12,654	15,854
負債純資産合計	50,668	52,545

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第40期 (平成20年5月1日から 平成21年4月30日まで)	第41期(当期) (平成21年5月1日から 平成22年4月30日まで)
売上高	55,874	60,362
売上原価	47,951	51,667
売上総利益	7,922	8,694
販売費及び一般管理費	6,292	6,863
営業利益	1,629	1,831
営業外収益	683	810
営業外費用	498	468
経常利益	1,814	2,173
特別利益	78	87
特別損失	279	254
税引前当期純利益	1,613	2,005
法人税、住民税及び事業税	837	1,149
法人税等調整額	155	△ 109
当期純利益	620	965

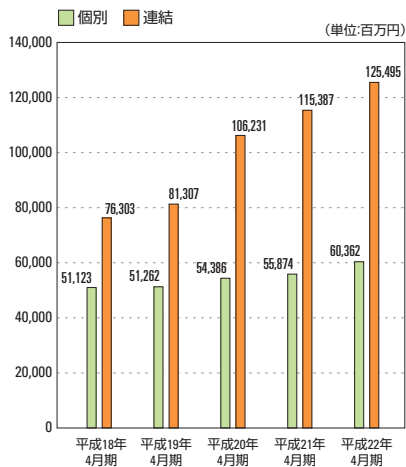
■ 株主資本等変動計算書

第41期(当期) (平成21年5月1日から平成22年4月30日まで)

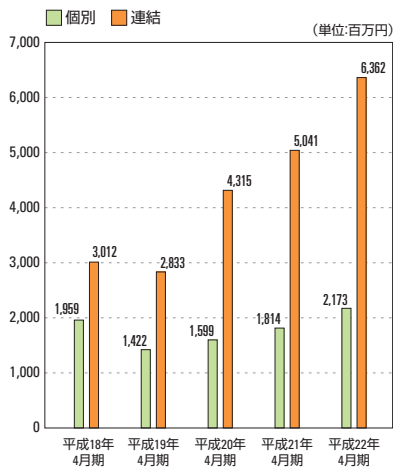
(単位：百万円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等 合計	
	資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他 別途積立金	利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計						
平成21年4月30日 残高	5,057	3,247	1,000	4,247	1,400	2,303	3,703	△ 3	13,003	△ 349	△ 349	12,654
事業年度中の変動額												
新株の発行	1,251	1,251		1,251					2,502			2,502
別途積立金の積立					200	△ 200	—		—			—
剰余金の配当						△ 384	△ 384		△ 384			△ 384
当期純利益						965	965		965			965
自己株式の取得								△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									—	118	118	118
事業年度中の変動額合計	1,251	1,251	—	1,251	200	380	580	△ 0	3,082	118	118	3,200
平成22年4月30日 残高	6,308	4,498	1,000	5,498	1,600	2,683	4,283	△ 4	16,086	△ 231	△ 231	15,854

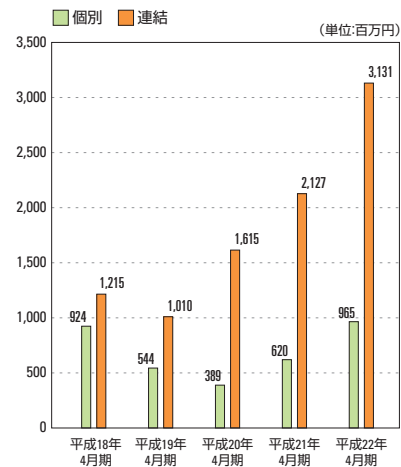
売上高



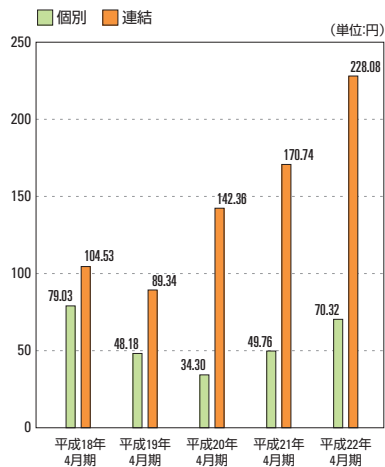
経常利益



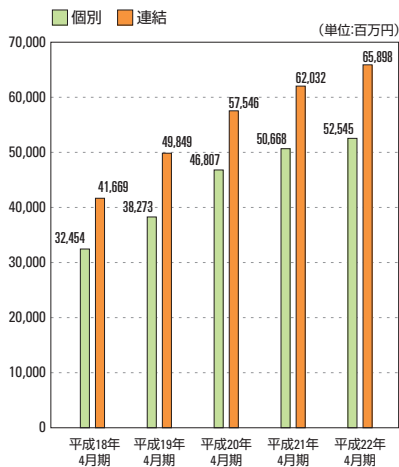
当期純利益



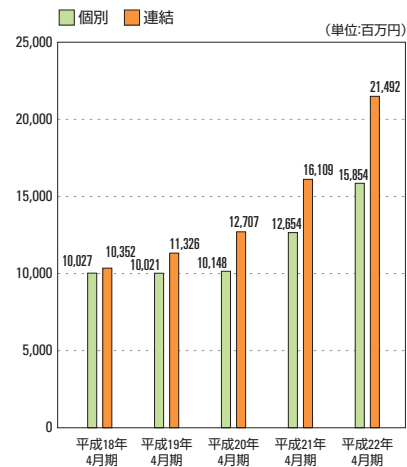
1株当たり当期純利益



総資産



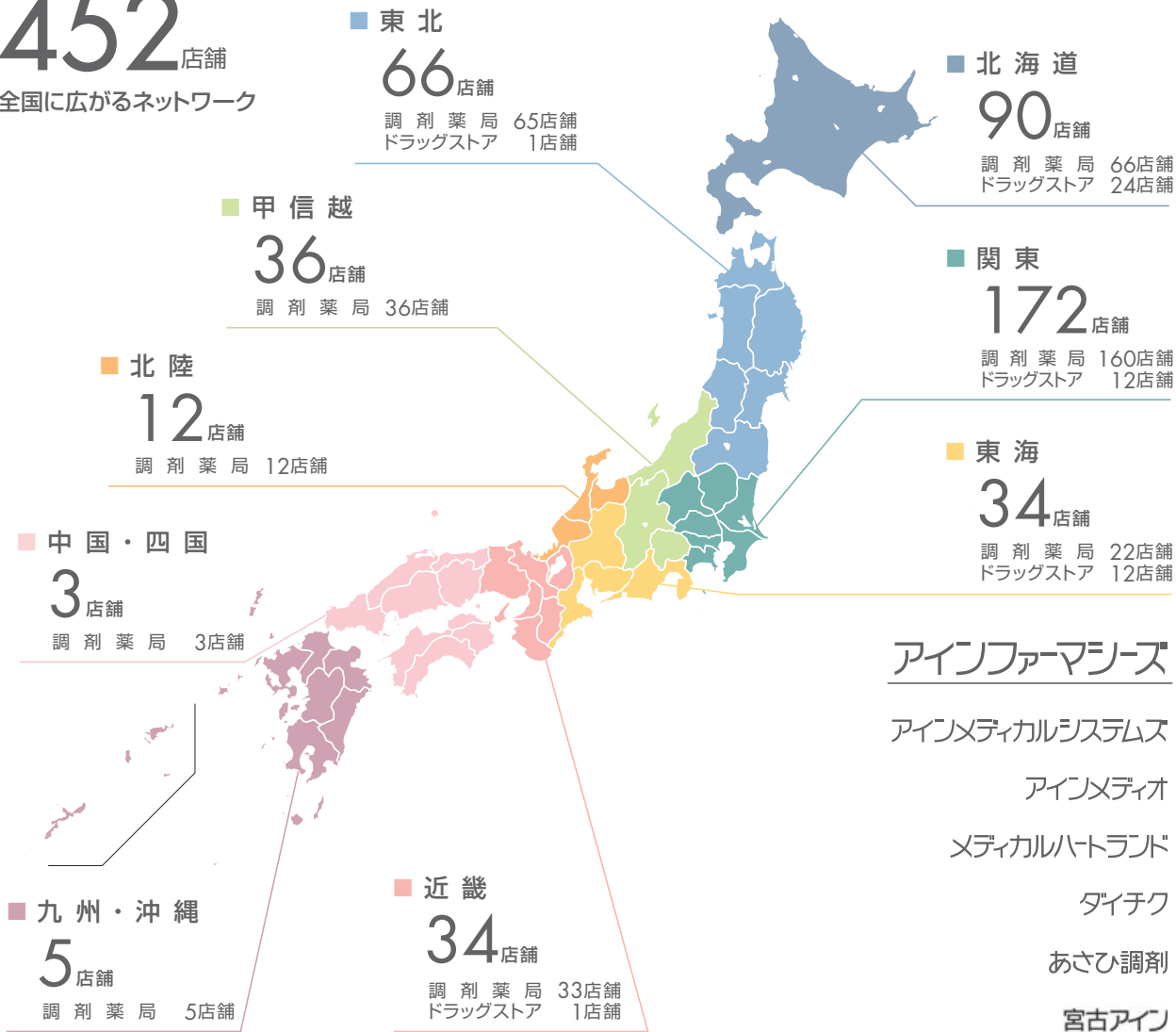
純資産



アイングループ

452 店舗

全国に広がるネットワーク



アインファーマシース

アインメディカルシステムス

アインメディオ

メディカルハートランド

ダイチク

あさひ調剤

宮古アイン

商 本 社	号 社	株式会社インファーマシーズ 札幌市東区東苗穂5条1丁目2番1号 TEL (011) 783-0189 (代表)
設 立	立	昭和44年8月
資 本	金	63億845万円
従 業 員	員	2,918名(連結) 1,326名(単体)
事 業 内 容	業 内 容	・調剤薬局チェーン アイン薬局 今川薬局 ・ドラッグストアチェーン アインズ アインズ&トルペ トルペ

役員構成	代表取締役会長	今川美明
	代表取締役社長	大谷喜一
	代表取締役副社長	南雲正
	専務取締役	加藤博美
	専務取締役	川井淳一
	専務取締役	櫻井正人
	常務取締役	首藤正一
	取締役	水島利英
	取締役	栗林政博
	取締役	佐藤譲治
	取締役	水野勝
	取締役	南晃
	取締役	小林強
	取締役	木内政雄
	常勤監査役	大橋一郎
	監査役	井須孝誠
	監査役	石橋雄哉
	監査役	杉本和紀

(2010年7月29日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 44,000,000株
発行済株式の総数 14,104,106株

(注) 1.公募増資により、新株式を1,200,000株発行し、発行済株式の総数は1,200,000株増加しております。
2.ストックオプションの権利行使により、発行済株式の総数は70,000株増加しております。

株主数 3,032名
大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
大谷喜一	1,754	12.44%
丸紅株式会社	1,340	9.50%
今川美明	1,200	8.51%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー株式会社セブン&アイ・ホールディングス	1,029	7.30%
株式会社北海道銀行	1,000	7.09%
株式会社北信託銀行	546	3.87%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	540	3.84%
農林中央金庫	300	2.13%
バンクオブニューヨーク・ジェシーエムクライアントアカウント	274	1.95%
ジェイビーアールディ アイエスジー エフイーエーシー	266	1.89%
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリノーザン		
トラストガンジー ノン トリーティエー クライアーツ		

(注) 持株比率は自己株式(2,942株)を控除して計算しております。

株 主 メ モ

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	毎年7月
基準日	毎年4月30日
株主名簿管理人	その他、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
(証券会社に口座を) お持ちの場合)	お取引の証券会社になります。 ※未払配当金の支払い、支払明細発行については下記の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先をご利用ください。
(特別口座の場合)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店 ※電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。
公告方法	電子公告により行います。(http://www.ainj.co.jp/) ただし電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。